

## 令和4年度 南区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	令和5年2月22日（水）午後1時30分から午後2時30分まで
会場	南区役所4階 講堂
出席者	<p>南区自治協議会委員：28名（欠席6名）</p> <p>教育委員：田中 賢一委員</p> <p>事務局：特別支援教育課長、学校支援課指導主事 白根公民館長、白根図書館長 南区教育支援センター所長、指導主事1名、主任 南区役所：副区長、地域総務課係長</p> <p>傍聴者：1名</p>
議事	<p>1 開会</p> <p>2 教育委員挨拶</p>
田中教育委員	<p>こんにちは。昨年度に引き続き南区担当の田中賢一と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日は足元の悪い中、また自治協議会前の貴重なお時間をちょうだいし、教育ミーティングを開催させていただき、本当にありがとうございます。</p> <p>以前ですと、この区教育ミーティングは年2回開催されてきました。その年度の市の取組みの紹介やあるいはテーマを決めて委員の皆様方と意見交換をするという形で進めてまいりましたが、この新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年度は大変残念ながら南区では開催することができませんでした。</p> <p>現在、学校現場では、この新型コロナウイルス感染症の感染防止対策と併せて子どもの学力保障という大きな課題を背負って、どの学校も一丸となって取り組んでいるところです。また、委員の皆様方には、昨年それぞれのお立場で、学校に対してさまざまなお力添えをいただいていた1年であったと、改めて感謝と御礼を申し上げます。</p> <p>本日は、限られた時間ではありますが、新潟市の特別支援教育と中学校の部活動の段階的な地域移行についてご説明申し上げ、皆様方から忌憚のないご意見をちょうだいしたいと考えております。</p> <p>なお、南区担当の教育委員として、もう一人、乙川委員がおるのですけれども、本日はどうしても都合がつかないということで欠席させていただいております。皆様によろしくということでありました。</p> <p>それでは、どうぞよろしくお願いいたします。</p>



合は学校看護師、小中学校と同じように看護師を派遣しています。また、昨年度、ある幼稚園に大変重い障がいを持ったお子さんが入られ、そのために、ほこりとかが非常に危険な病気であるということで、エアコンを入れ替え、空気清浄機を入れるなどの配慮をしました。事前に、早くに情報が分かっているとそういった大掛かりなことでもできるのですが、4月から入りますとなると、予算措置が大変難しく後手になってしまうので、早め、早めの情報が必要かと思っています。

通級の校外ということなのですが、各区に何校か通級指導教室を備えた学校があります。通級指導教室が自分の学校にある子は、1時間目、自分の教室で授業をして、2時間目はそこに行く、でいいのですが、自分の学校にない子は、保護者の送迎を原則として、通級指導教室が設置されている学校に通い、個人指導を受けるということになっています。今、計画的にどんどん増やして行って、同じ南区の中であれば、対角線に近いと言いますか、南区の中に真ん中に2校あるよりも離れた場所に2校作れば多くの子が通いやすくなりますので、そういう形で今増設を進めています。

3点目の交流についてです。特別支援学校のお子さんは、東西の特別支援学校に通学バスで通っています。住所のある学校、居住地の学校、白根小学校の学区に住んでいるお子さんとは居住地交流という制度があって、西特別支援学校に通っている白根小学区のお子さんが白根小学校の子どもたち、同級生と交流するという制度があります。ただ、まだまだ一般的に認知されていなくて、数は少ないというところです。子どもたちは学校を卒業すれば必ず地元に戻ってきますので、この居住地交流をもっと進めなければいけないと思っています。

自治協委員

一つだけお伺いしたいのですが、今、小学校ではタブレットが支給されておりますけれども、障がいのある方にも全員タブレットは支給されているでしょうか。

特別支援  
教育課

支給されています。タブレットの持っているさまざまな機能、単純に言えば、弱視の方では、ぴっとやるだけで文字を拡大するので絵本が読めるとか、文字を読み上げてくれるので、全く目の見えないお子さんも文字の情報を手に入れることができるとか、さまざまな機能、それから先ほどの発達障がいのお子さんは、ただ文字で示されてもなかなか入ってこない、それをタブレットだと自分で動かして操作するような形で一日の日程を自分で組み立てて、こういうふうな一日だよというようなアプリがあって、そうすることで計画を立てたり、急な変更がすごく苦手なお子さんたちも自分で自分を管理できる力が高ま

	<p>ってくるということです。障がいのあるお子さんにこそ、このタブレットが役に立つのではないかとということで、今、新潟市では、障がいのあるお子さんへのタブレットの普及をもっと進めるためにITサポートセンターを作り、障がいのあるお子さんへの活用を進めようという事業を進めています。</p>
<p>自治協委員</p>	<p>パワーポイントの中に、区別の特別支援学級の設置状況の「知」「情」「肢」「病」「弱」「難」と書いてありますが、正規な呼び方と、どういう状況の方をおっしゃっているのか、南区の「17」は、どういうところに設置されているのかをお聞かせいただければと思います。</p>
<p>特別支援 教育課</p>	<p>「知」は知的障がいです。「情」は情緒障がい、先ほどの発達障がいのお子さんたちがここに多く分類されます。「肢」は肢体不自由、手足など体の機能に障がいのあるお子さんです。「病」は病弱特別支援学級で、入院中のお子さんや退院後も引き続き治療が必要なお子さん、特別な配慮が必要なお子さんです。「弱」は弱視特別支援学級です。めがねでは補えないくらいの弱い視力のお子さんです。「難」は難聴特別支援学級です。耳が聞こえにくいために、言葉の面でも、自分が言葉を発するほうも、ともすると不自由になりがちということです。「言」は言語の特別支援学級です。見ていただくと、新潟市内に一つもないとみえるのですが、実はこれは、大変数が少ないということと、この言語について指導できる専門家が少ないので、通級指導教室を設置して皆さんに遠くから通って来てもらうという形を今とっています。</p> <p>南区は、小中学校に 17、今、詳しいものは手元にないのですが、ほとんど全ての学校に特別支援学級が設置されています。</p> <p>幼稚園では特別支援学級というものはなくて、先ほどのように、南区ではいっしょになかったと思いますが、障がいのあるお子さんがほかのお子さんと一緒に、立ち上がれずにおしりと手ではいはいするようなお子さんが、ほかの子どもたちと一緒にフロアの中で遊んでいる、そういう幼稚園もあります。南区ではないところではありますが。特別支援学級ということで個別に近い形での支援を受けられるのは小中ということになります。</p>
<p>自治協委員</p>	<p>発達障がいの子どもに対して、父兄は、何か問題があると、当然、学校側にいく。学校は教頭先生や教務主任がそれに対応するという形ですが、そこに、不満というのでしょうか、なぜこうなのかという声をよく聞きます。</p> <p>それは、長年教員をやっていた先生ですけれども、当然、そういう教育はなされていると思いますが、一つ、提案的な話も含めまして、</p>

父兄と学校の先生、教頭先生、教務主任ともう一人、専門的な先生が入って、3人で話し合いをして、ケースバイケースですが、発達障がいの子はいろいろいますからそういう子どもに対して、いろいろなパターンができてくると思うので、実際、学校の先生がどういうときにはどういうパターンで動けばいいかというものを構築していく必要性があるような気がするのです。

先日聞いた話ですが、学校に行くと、その子どもは授業を抜け出して帰ってしまう。そして、帰ったら、母親は働いているわけです。ラインで連絡が来るのですが、「帰らせました」というのがいいのか。鍵を持っていない「子どもを帰らせた」とラインに入っただけでいいのか。具体的な泥臭い話ですが、その父兄は不満だということを私にしました。

本当にケースバイケースですが、そういうような事例の講習、構築を高めながら、特に発達障がいの通常学級にいる子というのは圧倒的に多いわけです。今後も増えていく。一般の小学校、中学校の先生方だけではやりきれないと思います。ですから、3者でそういうコミュニケーションをとりながら見守っていくような制度ができていいのかと、意見も含めましたのでご検討願います。

特別支援  
教育課

ありがとうございます。とても具体的な提案と、現状を踏まえたご意見をありがとうございます。

おっしゃるとおりで、子どもたちの数が、先ほどお示ししたように、10年間で2.2倍に増えている。学級数も208学級増えている。当然、特別支援学級担任が208人必要になっているけれども、新潟大学とも連携をして特別支援教育免許のある学生の採用をPRしていますが、まだ追いついていない。今年度、特別支援学級の担任のうち、48パーセントが特別支援学級を受け持った経験が3年以下である。非常に経験が浅いということが分かり、人材育成、そして、今までですと大学の先生を呼んで最新の特別支援教育の知識というような研修をしていたのですが、ターゲットはそこではないだろうと。3年目以下の経験の浅い方々にターゲットをあてて、今ご指摘のあったような保護者対応であるとか、そういった基本的なことを徹底的にやっています。

具体的にいえば、発達障がいのお子さんを育ててこられた親御さんは、小さいときからずっと苦勞してそのお子さんに寄り添ってこられている。あちこちで不適切な、大きな声を出してしまったりとか、泣きわめいてしまったりということをずっと経験してきているのですが、学校の授業の場面で、担任が心無い言葉を言ってしまう、学校を飛び出した。そうしたら、電話1本で、「学校を飛び出しました」「家

	<p>できちんと指導してください」。それはないだろうという話になるわけです。</p> <p>親御さんの立場を十分に理解して、ご苦勞をねぎらったうえで、学校で起きたことは学校で責任を持ちましょうと。私たちの授業中だったのですが、飛び出しを許してしまいました、これから探しに行きますが、心配ですのでお母さんにもお知らせしました、安全が確保されたらお知らせしますというような、学校として預かっている以上は自分たちに責任があるということを感じて指導しましょうというようなことを話しています。</p> <p>そして、おっしゃるように、専門性の高い教頭先生以外の職員ということで、特別支援教育コーディネーターという職員を各学校に配置しています。ただ、この特別支援教育コーディネーターも経験が浅かったり、特別支援学級担任になったからやったけれど、自分自身、まだまだ不慣れなのですという人も多いため、先ほどのピラミッドでいうと、3年目以下の人をターゲットにすることと併せて、この特別支援教育コーディネーターの研修を手厚くして行って、各学校の核になってもらえるようにしていきたいと思っています。</p> <p>もしまた地元での声等がありましたら、遠慮なく特別支援教育課にお知らせください。よろしくお願ひします。</p>
議 事	<p>3 説明</p> <p>(2) 部活動の地域移行について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会事務局より説明</li> <li>・質疑応答</li> </ul> <p>※(2)の説明内容は会議資料を参照</p>
司 会  自治協委員  学校支援課	<p>質疑応答、意見交換に移ります。</p> <p>この件については、かねてから皆さん知っていますので、これはやむを得ないのかと思いますが、これについてよく聞くのが、例えば中学校合同で活動する場合、中央区や東区のように中学校が隣接していれば問題なく自転車でも行けるだろうと。でも、南区のように、練習会場、活動会場がかなり離れている。これについて、特に平日、放課後は、だれが送迎してくれるのか。そういったものがなければ子どもたちは活動には参加できないよなという声を聞いておりますので、ご見解をお願いしたいと思います。</p> <p>貴重なご意見、ありがとうございます。確かに、区によって状況がさまざま違うということは新潟市の一番大きな特徴といえますか特徴的な部分なのだろうと思っています。</p> <p>先ほどの事例として出しました他の区ですが、例えば秋葉区。中央</p>

	<p>区ですと新潟市陸上競技場辺りに通ってくるのですが、現状を考えますと、そちらに通ってくるにあたって、保護者の方から送迎していただいているところが中心になっております。新潟市陸上競技場という中央区にある施設ですが、周辺区から親御さんの協力をいただきながら通ってきている子が大勢いるということでございます。北区で行っているところも、土日、やはり親御さんに送ってもらってきているという辺りと、季節によって自転車の安全な利用の仕方についても今後検討していくというような話題が出てきています。</p> <p>今のご指摘にあったとおり、区によってだいぶ開きといたしますか学校ごとの位置の開きがございまして、そこに集まってくるにあたっては、親御さん方のご協力という辺りを今考えていることではあります。今いただいたご意見を基にしまして、課でも検討を進めてまいりたいと思います。</p>
自治協委員	<p>土日ではなくて、平日の放課後練習がありますが、そのときの親御さんの送迎はなかなか厳しいのではないかと。そういうときに、教育委員会がバスをうまく活用して送迎ができないものなのかといったことを考慮しながら進めていってはいかがかと思っています。</p>
学校支援課	<p>ありがとうございます。貴重なご意見として承りたいと思います。</p>
自治協委員	<p>部活動については少し関心を持っています。私も実際に部活動の指導者としてやっているのですが、やはり土日であろうと平日であろうと、指導していく上で一番に会場の問題があります。できれば学校単位で時間を調整して教えるのが一番いいのですが、例えば白根、臼井など、それを一緒に、合同でやるとなると、会場の広さも必要になりますし、レベルアップをするためにもかなり大変なところが出てきます。そういうことから、学校単位の中で少しずつでも入れるような配慮をしていただければありがたいです。</p> <p>もう一つ、指導者も学校として適切な人をできるだけ選べるような形をとるために、指導者と教育委員会と1年に1回か2回、懇談し、どういう方法が一番いいのかということを設定できるような体制、でないと、ただ厳しく指導すれはうまくはなりません。でも、落ちこぼれる子は必ず出てきます。その辺をどのように学校としてみていくのか。それから、本当に上手にしたければ、やはり夜の部活以外に地域のクラブに入ったりして、そうなるとかなりの練習時間が費やされることになるので、そのような競争方針も含めて、部活動に移行されるのか。それとも、やはり楽しく、そして将来に向けてその子たちが育つために部活動を移行していく方針なのか。学校としては忙しく、い</p>

<p>学校支援課</p>	<p>ろいろ先生の大変さは十分承知していますが、移行するためにも、その辺が少し疑問に思い、ネックになっています。どういうものなのかというのが今の考えです。</p> <p>ご質問いただきまして、ありがとうございました。</p> <p>会場問題ということがありました。今、委員会でも検討を重ねてきました。中には、吹奏楽という学校内を使う必要のあるような部活動もあるのですが、学校の体育館や学校の施設、音楽室といったものをどのように開放できるかという辺りの検討を進めているところです。</p> <p>おっしゃるとおり、いくつかの学校の子どもたちが集まってきて活動を行うということで、会場はどうなるのかという辺りのご心配はあると思いますが、現段階で、サッカー部あたりは、学校のグラウンドに集まって活動を行っているような状況で、土日の活動になったときに、運営主体たる方がどちらかの学校の保護者であったり、どこかの学校の指導者であったときに、その学校の部活動として今まで使っていた土日の時間枠をそのまま使えるような方法を課のほうで検討しているところです。</p> <p>土日の部活動というようにお話でしたが、実際に、正確に言いますと、土日の部活動ではなく、部活動から切り離された別の活動というところになっていきます。ただ、そこやはり指導者の方がどういった方かということは検討していく必要があるかと思えますし、もちろん、行き過ぎた指導にならないということは、土日の活動であっても平日の部活動であっても私たちが留意しながら見ていかなければいけない部分だと考えております。</p>
<p>議 事</p>	<p>4 南区自治協議会会長挨拶 南区自治協議会会長 高橋 直廣 様</p>
<p>司 会  自治協議会 会長</p>	<p>最後に、南区自治協議会会長、高橋直廣様から閉会のごあいさつをお願いいたします。</p> <p>今日、このお話を聞かせていただいて、私の部活動のときは、夏休みの炎天下でも「水を飲むとぼてるから飲むな」と言われた、その世代からしてみれば、隔世の感を感じています。</p> <p>要するに、さまざまニーズが多様化している中で、絶対数が少なくなってきた。そのニーズに応じていくためにはどうしたらいいのかというのは、本当に皆さん方、苦勞なさっているのだろうということで、今日、感じておりました。時間が足りなくて、例えば上位大会の場合、今度はどのような形で選抜されていくのかとか、本当は聞きたかったところもあったのですが、また次の機会とさせていただきたいと思っています。</p>

	<p>その中で、私は今回、この資料を二つのテーマでいただいて、事前に見たので、ある程度、ああ、こういう現状と課題があるのかということが分かったのですけれども、これを見るまでは、正直、団塊の世代の私にとってみれば分からないことが多かったのです。ということは、そういう機会、情報が与えられていない方々はまだまだ新潟市内にたくさんいらっしゃるのではないかという気がしています。その中で、啓発も含めて、今後、そういう、本当にさまざまな多様化しているニーズに応じていくためにはどうしていったらいいのかというのは、本当に大変でしょうけれども、皆様方のこういう意見を聞くなりして、今後の対応策に対して期待しているところですので、これからも未来の子どもたちに対していいサービスができますように、ぜひよろしくお願いしたいと思っております</p> <p>感想を申し述べまして、閉会のあいさつとさせていただきたいと思います。今日はどうもありがとうございました。</p>
議 事	5 閉会
司 会	ありがとうございました。以上をもちまして、令和4年度南区教育ミーティングを閉会いたします。